

新春記者会見資料

日 時：平成30年1月9日（火） 午前11時～

場 所：市役所2階 庁議室

○ はじめに

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた一年のスタートを飾られたこととお慶び申し上げます。年頭にあたり、まずもって皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

○ 昨年を振り返って

昨年7月、九州北部を中心とした集中豪雨により甚大な被害がありました。自然災害はいつどこで起きてもおかしくない状況が近年続いております。

本市におきましても台風21号の襲来により、24時間雨量が観測史上最大を記録し、河川水位が上昇したため、名張川、宇陀川流域の地域の皆さんに避難勧告を発令しました。台風接近前からの長雨も重なり、市内各地で倒木や道路の陥没・崩落などの被害件数が増え、東山墓園は第1期の一部が崩落するという大きな被害が発生しました。被災された使用者の皆様には、大変ご心配をお掛けしております。市では、早期の復旧に向け、国・県の支援もいただきながら、その作業に全力を挙げて進めております。

4月には、2021年に開催される三重とこわか国体で、弓道の遠的競技とホッケー競技の会場となります市民陸上競技場の改修工事が完了し、トラックが全天候型のウレタン舗装となり、フィールド内は人工芝に生まれ変わりました。

そして、市立病院、介護老人保健施設「ゆりの里」が開院から20周年を迎えました。産婦人科設置の準備も進めながら、これからも地域の中核病院として、経営の効率化を図りながら、皆さんが安心して受けられる医療を目指してまいります。

6月には、障害の有無に関わらず、誰もがコミュニケーションが取りやすいまちを目指し、「手話その他のコミュニケーション手段に関する施策の推進に関する条例」を制定しました。手話だけでなくあらゆるコミュニケーション手段にまで広げた条例は、本市が県内で初めてとなりました。

また昨年は、健康で元気なまちを目指す「まちじゅう元気推進都市」、子育てを社会全体で応援する「妊婦応援都市」のそれぞれの宣言を行いました。合わせて、働きやすい子育てや介護がしやすいまちの実現を目指し、市内 65 の事業者の皆さんと「まちじゅう元気！イクボス宣言」も行いました。関係機関、各種団体の皆さんのご協力をいただきながら、それぞれの事業を展開してまいりました。

○ 平成 30 年の施策展望

本市では、今後も経済状況や国の地方財政措置に左右されることなく、将来にわたり安定的に行政サービスを提供できる持続可能な行財政運営の確立のため、行財政改革、事務事業の見直し、経常経費の更なる削減を続けていかなければなりません。

その上で、市総合計画「新・理想郷プラン」に基づき、人や企業から選ばれる活気に満ちたまち、「**元気創造**」。愛着を抱きいつまでも住み続けたいと感じるまち、「**若者定住**」。いつまでも健康で生きがいを持って地域社会の担い手として活躍できるまち、「**生涯現役**」。これら 3 つの重点戦略を中心に、市民の皆様とともに各種施策を横断的かつ一体的に進めてまいります。

「平成」という時代も 30 年の節目を迎えました。この時代の大きな転換期を見つめつつ、穏やかでありながらも、無限の可能性を感じる年にしたいと考えております。

4 月に市長選を控えておりますので、これまでの継続事業となっている主な施策について申し上げます。

1. 支え合い健康でいきいきと暮らせるまち

(1) 地域福祉教育総合支援システムの推進

老いも若きも、男性も女性も、障害や難病の有る無しに関わらず、全ての市民参加が叶う互助共生のまちを目指し、さまざまな分野に係る複合的な課題にワンストップで対応できるよう、各関係機関のネットワークを充実させ包括的に支援していく「地域福祉教育総合支援システム」の取り組みを進めてまいります。

(2) 地域医療体制の充実

伊賀地域の地域医療体制のあり方については、「三重県地域医療構想」や平成 30 年からの「三重県医療計画」に沿って伊賀市、3 病院、三重県等の関係機関と協議し、取り組みを進めてまいります。

また、市立病院では、「第二次名張市立病院改革プラン」に沿った病院事業の経営改革に取り組むとともに、産婦人科の設置に向け準備を進めてまいります。

(3) 国民健康保険の財政運営

持続可能な保険運営を目指し、4 月 1 日から国民健康保険の財政運営が県に一元化されます。保険証の発行業務の手続きなど窓口業務は、これまでどおり変更ありませんが、新制度への円滑な移行作業を行ってまいります。

(4) 子ども医療費助成制度

未就学児童が、本市又は伊賀市の区域内にある保険医療機関で医療を受けた場合における医療費について、4 月から現物給付方式を導入し窓口での負担を無くすことで子育て世帯の経済的負担の軽減を図ってまいります。

(5) 健康づくりを応援

地域ぐるみで健康づくりを推進するため「まちじゅう元気推進都市」を宣言しました。市民の健康意識を高め、健康づくりの習慣化を支援するため「名張ケンコー！マイレージ」に引き続き取り組み、健康寿命の更なる延伸を図り、生涯現役のまちの実現を目指してまいります。

(6) 子育て支援の更なる推進

市民総ぐるみで妊産婦や未来の子どもを大切に作る風土をつくるため「妊婦応援都市」を宣言しました。新しく子育て世代を支える広い人材育成のしくみとして「こそだてサポーター養成講座」を始めます。多くの皆さんに子育ての応援者になっていただき支援の輪を広げていきたいと考えています。引き続き、妊娠・出産・育児を切れ目なくサポートする「名張版ネウボラ」をさらに推進してまいります。

(7) 待機児童の解消、多様な教育・保育サービスの提供

現在、蔵持保育園及び名張よさみ幼稚園の認定こども園化に向けた施設整備や小規模保育事業の新規整備を進めております。引き続き、保育の受け皿の拡大により待機児童の解消を図るとともに、子どもの年齢や保護者の就労状況に応じた多様な教育・保育サービスの提供ができるように取り組んでまいります。

2. 美しい自然に包まれ快適に暮らせるまち

(1) 安全で安心なまちづくり

これまでも市民参加型として実施してまいりました総合防災訓練を今年もより多くの組織、団体、市民の皆さんに参加いただける形で、より実効性の高い防災訓練を実施してまいります。

(2) 消防救急、消防団の体制強化

大規模災害や増加・高度化する救急災害に的確に対応するため、警防・救助隊員の教育訓練を強化するとともに、救急救命士の養成や医療機関と連携した救急隊員教育の充実を図ってまいります。

また、消防団の皆さんには、昨年10月に襲来した台風21号に際し、長時間にわたる水防活動により、浸水被害を最小限に抑えていただきました。新しい団員活動服への更新など処遇改善を図りながら、組織の充実強化や大規模災害時における地域防災力の向上を目指し、引き続き、魅力ある消防団づくりを進めてまいります。

(3) 水道施設の更新や公共下水道等の整備

平成26年度から着手した富貴ヶ丘浄水場の機械・電気設備の更新は平成29年度末に完了いたします。引き続き、水道水を安定的に供給するため、水道ビジョンに基づき計画的に経年化した施設の更新・改良を行うとともに、老朽化した水道管は、更新の際に耐震化を図ってまいります。

下水道事業では、名張地区市街地のほぼ全域でご利用いただける運びとなり、今後も下水道普及に向けた整備を進めるとともに、移管施設などの老朽化対策について、年次的な改築更新に取り組んでまいります。また、比奈知地区で進めている農業集落排水事業は、工事の完成と本年秋の供用開始を目指してまいります。

(4) 空き家対策

昨年4月に名張、桔梗が丘、赤目地域をそれぞれ空き家等利活用促進地域として指定し、地域や関係団体の皆様と連携しながら空き家を活用した若年層の移住定住に繋がる取り組みを検討・実施してまいりました。

また、本年2月には空き家の所有者を対象とし、空き家の所有者の悩みを解消するため、不動産をはじめとした空き家に関する13団体の協力のもと、住まいの活用に関する無料相談会を開催いたします。

引き続き、空き家の利活用の促進に向け、積極的に取り組んでまいります。

3. 活かに満ちて暮らせるまち

(1) 名張の特色を生かした農業・農村の新たな価値

本年は、今まで進めてきた新規就農者や、経営の本格化を目指す農業者を支援し、小規模農家の販売先の確保をさらに推進していくことと同時に、新たな農業形態の実現のため、“なばり農業塾”を開設します。名張の特色を生かし、優れた農産品はもとより、農業・農村を守り、“なばり農業”を推進してまいります。

(2) 森林を取り巻く環境保全

未利用間伐材バイオマス利用推進事業につきましては、本年度も継続して実施し、申請手続き等について、活用しやすいよう見直してまいります。

また、鳥獣の生息頭数は年々増加しています。鳥獣被害を防止するため、害獣の捕獲強化を図るとともに、引き続き、その推進に努めてまいります。

(3) 地域産業の振興

昨年4月に「隠（なばり）農産品加工所」が滝之原にオープンし、地元の農産物を加工・販売する事業が展開され、11月に新田地区に名張シティーファームが創業し、「なばリーフ」の生産が開始されました。

本年3月に整備を終える旧国津小学校校舎が、ワインの製造拠点として4月から稼働いたします。本市特産品の「ぶどう」の知名度を生かし、醸造用ぶどうの栽培からワインの生産・販売といった新たな取り組みにチャレンジし、6次産業による名張のブランド化事業を進めてまいります。

(4) いきいきと働けるまちづくり

雇用の増加を目指し、起業・創業、民泊・農泊、異業種連携、農商工連携、空き家の活用、移住定住者のビジネスチャンスなど新たなチャレンジを促す事業環境の整備や新たな雇用を生み出す取り組みなどを行ってまいります。

(5) 観光の振興について

昨年3月に本市が会長市となり、奈良県宇陀市及び曽爾村、御杖村、山添村、東吉野村の6市村で設立いたしました、広域連携DMO「東奈良名張ツーリズム・マーケティング」におきまして、昨年の実績を踏まえ、旅行企画の販売などインバウンドを中心とした広域観光の取り組みを進めてまいります。

また、本市の持つ自然や農等を活用したエコツーリズムやアグリツーリズム等の体験型・着地型観光の造成及び情報発信に努めてまいります。

4. 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち

(1) 名張市立小中学校の規模・配置適正化後期実施計画(案)

「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」(案)は、今後も学習者起点に立ち、2020年度を目途としながらも、実施にあたりましては、保護者・地域住民の皆様方と十分協議の上進めてまいります。

(2) 小中学校関係施設の整備

○空調設備整備

「名張市小中学校教室における空調設備整備実施方針」に基づき、平成30年度から順次、市内小中学校の普通教室、特別教室に空調設備の設置工事を進めてまいります。

○中学校給食の導入

中学校給食の導入につきましては、小中学校への空調設備の設置が完了した後、施設整備に着手することといたしておりますことから、庁内プロジェクトチームにより、事業手法等の検討作業の上進めてまいります。

(3) コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進

第二次名張市子ども教育ビジョンに基づき、昨年度の南中学校、つつじが丘小学校に続いて、順次コミュニティ・スクールを設置してまいります。

ふるさとを愛し、引き継いでいく意識を醸成する、ふるさと学習なびり学は、平成30年度に小学校1年生から4年生において試行します。地域と連携・協働しながら、未来を担う子どもたちを育ててまいります。

また、4月から、南中学校、つつじが丘小学校において小中一貫教育を本格実施し、他の中学校区についても段階的に推進してまいります。

(4) 「ピカ1学級」の取組み

市内の公立・私立すべての保育所（園）及び認定こども園、幼稚園に、教職員のOB（通称「ピカ1先生」）が巡回し、就学に向けての準備となる活動を行う「ばりっ子 ピカピカ小1学級体験プロジェクト」（通称「ピカ1学級」）を実施してまいります。

5. 未来につなぐ自立と協働による市政経営

(1) 行財政改革の更なる取組み

行政サービスを低下させることなく、名張躍進の土台づくりを確固たるものにするとともに、働き方改革などの新たな行政課題に対応するため、今後も引き続き行財政改革を推進してまいります。

(2) 協働のまちづくり

これまでも、市民の皆様とともに地域力を築き上げ、住民自治の熟度を高めてまいりました。今後も市民主体の地域づくりを一層促進するため、市民の皆様と課題や目標、さまざまな情報を共有しながら、地域で支え合う共生社会の実現を目指したまちづくりを進めてまいります。

○ むすびに

以上、年の初めにあたり、主な施策を申し上げます。

本年も旧に倍するご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。